

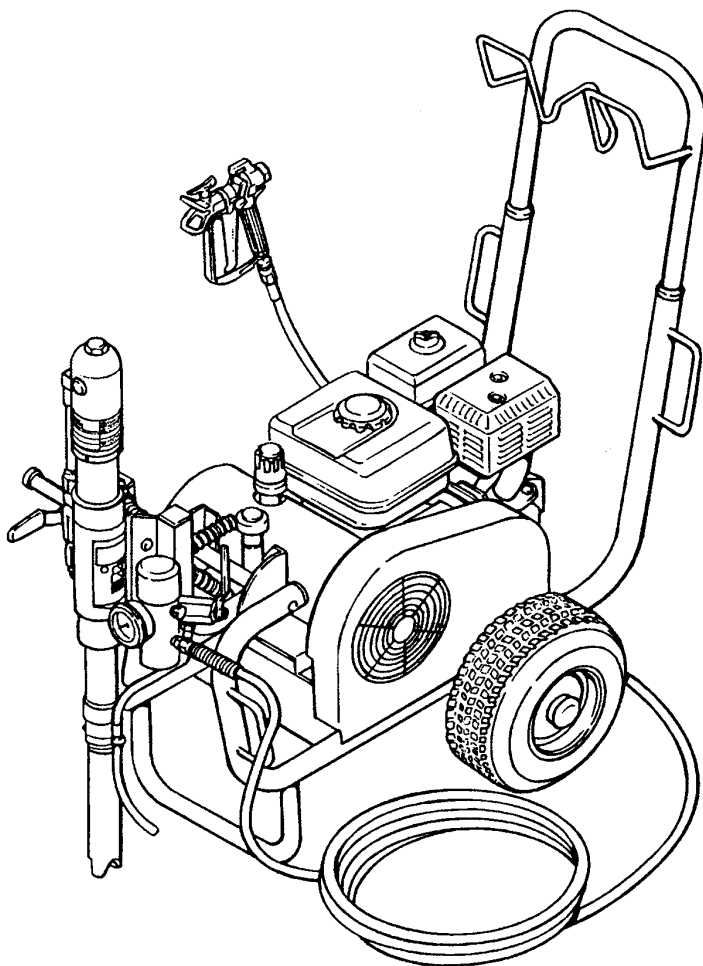
©本機をご使用になる前に必ずお読み下さい。

WAGNER

油圧ピストンポンプシリーズ

HC 940 ・ 960G

取扱説明書



日本ワグナー・スプレーテック株式会社

《はじめに》

この度はワグナー“HC940・960G”をお買い上げ頂きまして誠に有難うございました。厚く御礼申し上げます。

本機のご使用につきましては、この取扱説明書をよくお読み頂き、正しい操作方法にて、末長く御愛用の程よろしくお願い致します。

又、ご不明な点、ご要望等がございましたら、御気軽に最寄りの弊社営業所までご連絡をお願い致します。

目次

1. 安全使用上の注意	1
2. 製品仕様	3
2-1. 仕様一覧	3
2-2. 標準付属品	3
2-3. 各部名称	4
3. 操作方法	5
3-1. 準備	5
3-2. 塗装開始	9
3-3. 作業の中断	9
3-4. 作業の終了と洗浄	10
3-5. 保管方法	11
4. 保守・点検	11
4-1. エンジン	11
4-2. 塗料(材料)ホース	11
4-3. ノズルチップ	11
4-4. フィルターセット	11
5. トラブルの原因と対策	12
6. 分解図 及び部品表	13
6-1. 塗料ポンプ	13
6-2. フィルターセット	15
7. アクセサリー	17

1. 安全使用上の注意

HC-940/960Gを安全にお使い頂くために、必ず次の注意事項をよくお読み下さい。正しい手順で扱わないと場合によって重大な事故を引き起こすことがあります。

この取扱説明書の注意事項には次の3種類の項目があります。

警告

この表示は、使用者が重傷を負う、または死亡する可能性のある危険性についての“警告”が記されています。

注意

この表示は、使用者が負傷する、または機器が破損する可能性のある危険性についての“注意”が記されています。

(注) 取扱説明書内で、特に注意を促す必要のある項目には(注)と記しています。

警告 塗装機誤使用による危険

- 本品をご使用の前に全ての取扱説明書、ラベルをお読み下さい。
- 本品はプロ用専用塗装機です。塗装以外の目的に使う場合は、弊社までお問い合わせ下さい。
- 本品を改造しないで下さい。
- 本品を毎日点検して下さい。摩耗したり損傷した部品があれば直ちに修理し、必要であれば新しい部品と交換して下さい。
- 本品は製品仕様に記載されている最高圧力(21.0Mpa)以下の圧力で使用して下さい。
- 塗料ホースが車両の通行する路面や鋭角のある物体、動いている物体、加熱した面などに接触しないようにして下さい。
- 加圧状態の装置を移動させないで下さい。
- 国や自治体の消防、電気、安全関連の法規・規則にしたがって作業を進めて下さい。

警告 塗装機噴霧による危険

- 吹き付けられた塗料が皮膚に突き刺さると大ケガをします。万一操作を誤ってケガをした場合は、直ちに医師による診察を受け、使用していた塗料および溶剤を報告して下さい。
- 吹付作業時、ノズルチップに手や指で触れないで下さい。
- 液漏れがあった場合、漏れ箇所を手、身体、手袋やぼろ布で止めないで下さい。
- 吹付作業は、必ずエアレスガンのノズルガードおよび安全カバーをつけて行って下さい。
- 1週間に1回は必ずエアレスガンのバルブシートに液漏れがないか点検して下さい。
- エアレスガンを使用する前に、引金の安全ロックが正しく操作できるか確認して下さい。
- 作業を中断するときは、引金の安全ロックをかけておいて下さい。
- ノズルチップが詰まった場合や装置の洗浄、点検、修理を行う時には必ず液圧を抜いて下さい。
- 機械の作動前には塗料ホース等の接続部が確実に締付けてあるか確認して下さい。
- 塗料ホース、チューブ、ホース金具は毎日点検し、摩耗や傷がある部品はすぐ交換して下さい。



警告 塗料・シンナー(うすめ液)による危険

- 引火点が21℃以下の塗料および溶剤は使用しないで下さい。
- ご使用になる液体の毒性を確認して下さい。
- 危険性のある液体は許可を受けた場所に保管し、国や自治体の規定に従い管理して下さい。
- 塗料・溶剤のメーカーの指示に従い、吹付作業中は常に保護メガネ(塗装用ゴーグル)や手袋、作業衣および防塵マスクをして下さい。



警告 火災・爆発の危険

- 塗装機および被塗物は必ずアースして下さい。静電気が発生するとスパークを起こし、火災・爆発・電撃の原因になります。
- 本品を使用中、静電気のスパークが起こったり、電気ショックを感じた時は、直ちに吹付作業を中止して下さい。原因を調べ、問題が解決するまで機器を使用しないで下さい。
- うすめ液や塗料の揮発蒸気が滞留しないように塗装現場は常に換気を良くしておいて下さい。
- 塗装現場にうすめ液の缶やガソリン、燃えやすいゴミ、布などを置かないで下さい。
- 塗装現場にある電動機械、電気器具は電源から電源コードを抜いておいて下さい。
- 塗装現場ではタバコを吸わないで下さい。
- 吹付作業中、または可燃性蒸気が残っている場所では電気スイッチのON/OFFは一切しないで下さい。



警告 機械・稼働部分の危険

- ポンプ始動時および運転中は、決して装置の稼働部分に手や足を近づけないで下さい。機械を点検、修理する前に必ず液圧を完全に抜いて下さい。



注意 廃油・廃液の処理

- 油圧ポンプ用オイル、エンジンオイルの交換時、塗料・うすめ液・洗浄液は国や自治体の法規・規則に従って処理して下さい。勝手に側溝(下水)などに廃棄しないで下さい。処罰されることがあります。

2.製品仕様

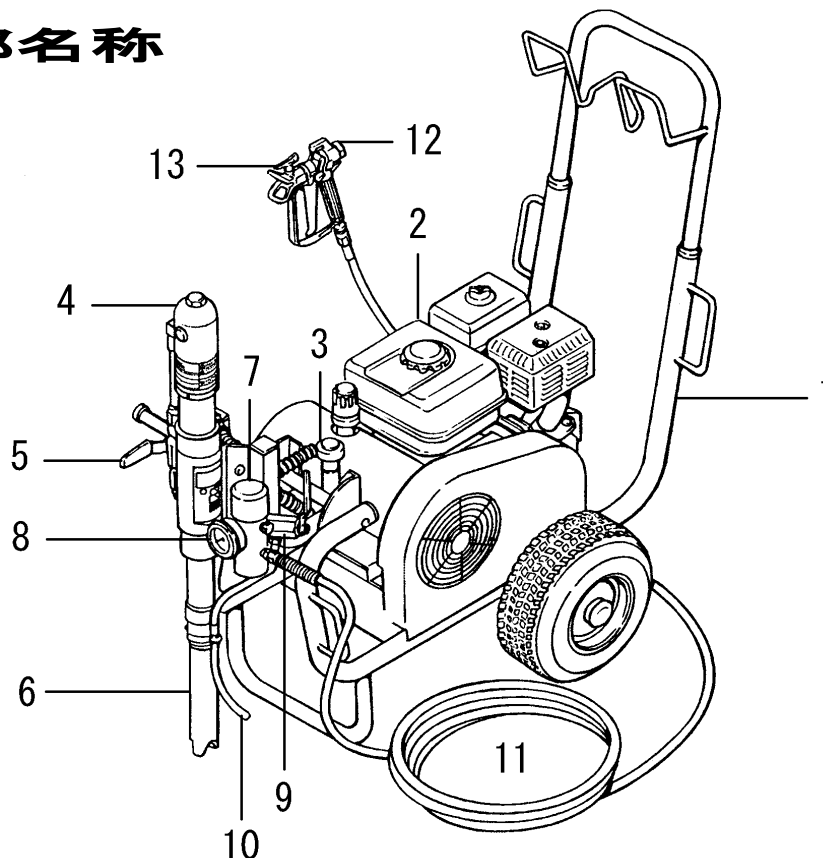
2-1 仕様一覧

型式	HC940G	HC960G
最大締切圧力	21.0Mpa	21.0Mpa
吐出量	8.0 ℓ/min	12.0 ℓ/min
駆動源	ガソリンエンジンGX 160	ガソリンエンジンGX 270
最大出力	4.1kw	6.6kw
圧力制御	油圧ポンプ	油圧ポンプ
本体重量	76kg	88kg
外寸法(L×W×H)	1185×955×655(950)	1200×955×655(950)

2-2 標準付属品

	ダイレクトサクシオン型D	ホッパー型 H
材料ホース	3/8(φ9.5)×30m	ツインホース(φ13、φ16×20m)
手元ホース	—	3/8(φ9.5)×2m
エアレスガン	AG-14J	AG-14J
玉吹きアタッチメント	—	AT-03(丸吹きφ6・8付き)
ノズルチップ	トレードチップ431/435	トレードチップ435
ホッパー	—	80ℓ(ステンレス製)
吸入ホース	ダイレクトサクシオン(アルミ製)	φ38×800mm(カムロック式)
リターンホース	φ12.7×800mm	φ12.7×1200mm
継手	袋ナット付異径ジョイント (G1/2F×3/8M)	ホースジョイント(G 1/2") 異径ホースジョイント (G1/2" ×3/8") エアー中間ジョイント (G 1/4")
工具	モンキースパナ、ベルトレンチ	モンキースパナ、ベルトレンチ
潤滑油	塗料ポンプ用(250ml)	塗料ポンプ用(250ml)
取扱説明書	本体、エンジン	本体、エンジン

2-3 各部名称



Pos	名称	
1	トロリー	ハンドルは伸縮可能
2	エンジン	ガソリンエンジン(GX 160、270)
3	圧力調整ノブ	MAX 21.0MPaまでの調整
4	塗料ポンプセット	油圧モーター使用 (8.0L、12.0L)
5	切換バルブ	塗料ポンプ作動・停止
6	塗料吸込口	D・・・ダイレクトサクション H・・・80Lホッパー(カムロック方式)
7	フィルター	逆止弁内臓
8	圧力計	0~40MPa
9	リターンバルブ	エアー抜き用バルブ
10	リターンホース	D・・・φ12.7×800、H・・・φ12.7×1500
11	塗料ホース	D・・・高圧ホース各種(1/4、3/8、1/2、5/8) H・・・φ13、φ16ツインホース各種
12	エアレスガン	AG-14J、G-15J
13	ノズルチップ他	平吹きノズル(チップ選定表参照) 玉吹きアタッチメント(AT-03)

3.操作方法

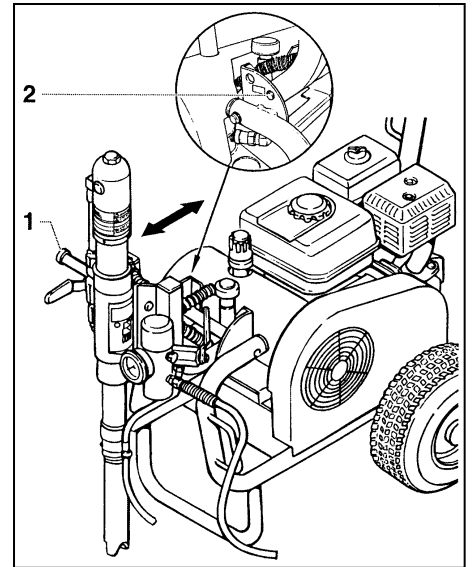
3-1 準備

- ① ハンドル(1)をエンジン側に押し、塗料ポンプは45° 傾きロックされます。水平にするには、ロックピン(2)を押し、ハンドル(1)を押して下さい。

注) ・ロックピン(2)を押す時、指を挟まないようにして下さい。
・戻す(縦にする)時も、ロックピン(2)を押して下さい。
・縦の位置では、ロックピンはロックされません。
塗料ポンプの自重にて、固定されるだけです。

- ② 油圧ポンプ用のオイルの点検

・ オイルケージ(3)で規定量あることを確認して下さい。



オイル量:4.7ℓ(油圧ポンプ 油圧モーター含む)

1ℓ缶入り:P/N 2145500

4ℓ缶入り:P/N 2145501

- 注) オイルが不足

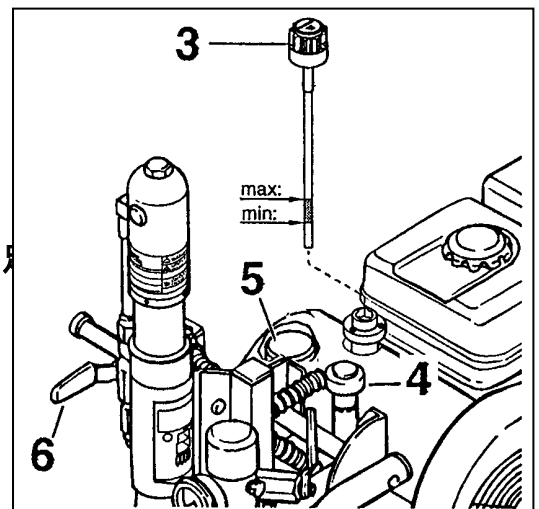
低下と共にポンプの故障の原因となります。

定期的に変換して下さい。

・注ぎ足しは極力さけて下さい。

交換時は油圧タンク全て抜いて、注入して下さい。

・オイルフィルター(5)はP/N 0349468は使用回数が多い場合は約半年、少ない場合は約1年以内に交換して下さい。



- ③ 圧力調整ノブ(4)を左回しで一杯戻して下さい。

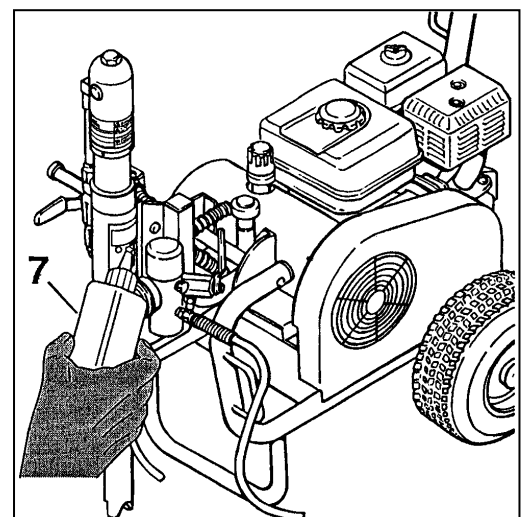
注)戻しておかないとエンジンの始動と同時に塗料ポンプが作動することがあります。

- ④ 切換バルブ(6)のハンドルを横(水平)にして下さい。

注)横にしておかないとエンジンの始動と同時に塗料ポンプが作動することがあります。

- ⑤ 塗料ポンプに潤滑油(7)を少量注入して下さい。

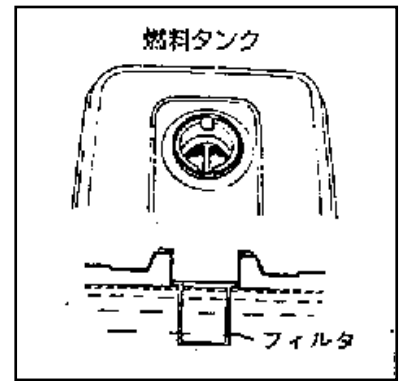
注)ピストンに付着した塗料が固まるとパッキンを傷つけ、塗料漏れになることがあります。
定期的に入力して下さい。



- ⑥ 燃料タンクにガソリンを入れて下さい。
 注)・使用ガソリンは「無鉛」(レギュラーガソリン)

タンク容量 HC940 (GX160 : 3.6ℓ)
 HC960 (GX270 : 6.0ℓ)

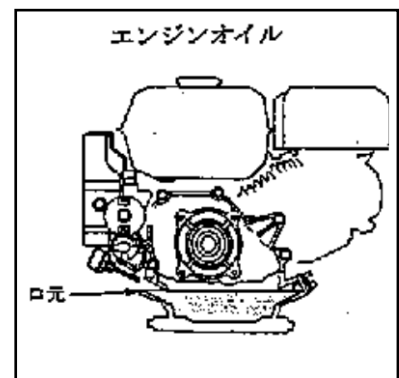
- ・給油口に「フィルター」が取付けてあります。
 異物の混入を防ぎます。常に清掃しておいて下さい。
 (水など液体は除去できません。)



- ⑦ エンジンオイルの点検して下さい。
 注)・規定量入ってなかったり、本体を傾けて
 使用すると安全装置(オイルアラート)が作動して
 始動しなかったり、停止します。

オイル容量 HC940 (GX160 : 0.6ℓ)
 HC960 (GX270 : 1.1ℓ)

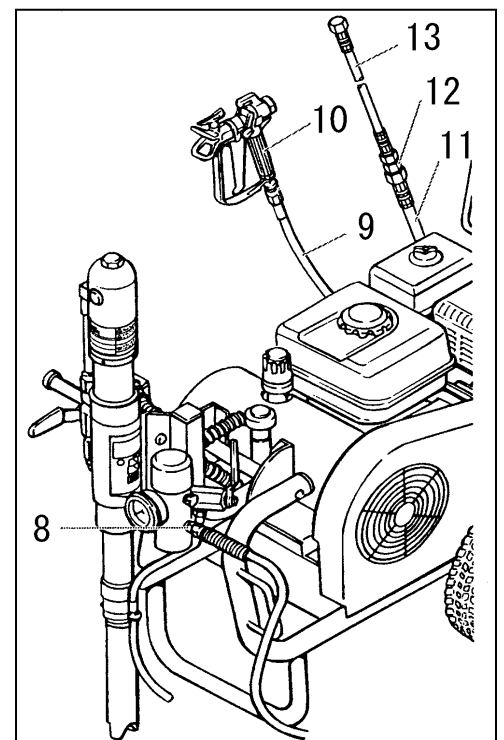
- ・劣化したオイルは安全装置(オイルアラート)が
 作動したり、エンジンの故障の原因となります。
 定期交換して下さい。(エンジンの取扱説明書を
 参照して下さい)



- ⑧ 塗料ホース・エアレスガンを取付けて下さい。
 ・シングルホース(9)の場合は、ガードスプリング側を
 フィルター側(8)に、反対側をエアレスガン(10)に
 取付けて下さい。
 ・ツインホースの場合、太いホースをフィルター側(8)に
 取付け、手元ホース(13)を異径ジョイント(12)で
 接続し、エアレスガン(10)を取付けて下さい。
 ・ツインホースの場合、エアホースの接続を忘れないように
 して下さい。

- 注)・高圧となりますので、工具で確実に取付けて下さい。
 ・接続部の各ねじは、サビ、塗料の固まりなど除去し、
 無理に締付ける事は避けて下さい。

※ノズルチップはまだ取付けてないで下さい。



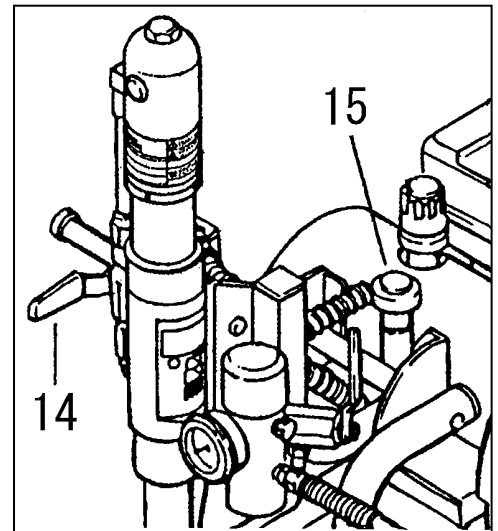
⑨ エンジンを始動して下さい。

注)エンジンについては、別紙「エンジン取扱説明」に従って操作して下さい。

⑩ エンジン回転数を「中速」にして、
切換バルブ(14)のハンドルを縦(垂直)にして、
圧力調整ノブ(15)を右にまわすと
塗料ポンプが作動します。

注)・空打ちは、パッキンの早期摩耗の原因となります。
作動確認だけにして下さい。

・塗料ポンプを作動させない時は、切換バルブ(14)の
ハンドルは、必ず横(水平)にして置いて下さい。



⑪ 塗料ポンプの吸入確認

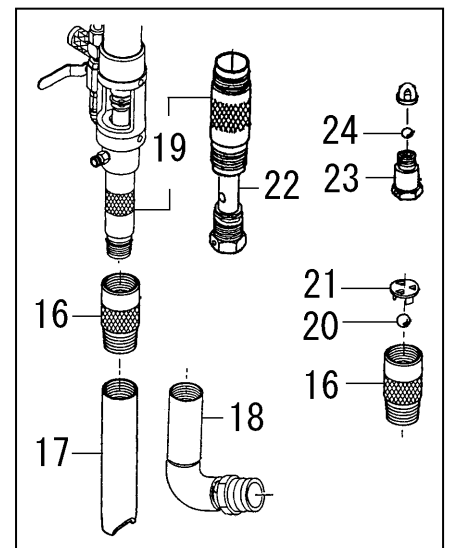
・塗料ポンプを作動させ、
「吸込み口」に手の平を当て、「吸入力」のあることを
確認して下さい。

注)「吸入力」が無い場合は、弁ボールの固着が考えられます。

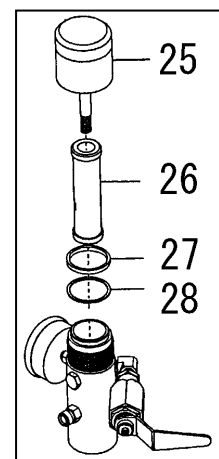
(解除方法)

・吸入弁・・・吸入弁ハウジング(16)から、ダイレクトサクシオン(17)
もしくはカムロック(18)を外し、吸入弁ボール(20)を
丸棒で押します。塗料等で解除できない場合は、
吸入弁ハウジング(16)をシリンダー(19)から外し
吸入弁ガイド(21)を外します(ねじ止めになって
いますので、注意して下さい)。弁ボール(20)を
取り出し、洗浄して、組込んで下さい。

・吐出弁・・・吸入弁ハウジング(16)を外し、吐出弁ハウジング(23)
に丸棒を入れ、弁ボール(24)を押します。
(注)ピストン部(22)から吐出弁ガイド(23)を外すのは、
指定サービスショップに修理依頼して下さい。



・フィルターセット・・・ハウジングカバー(25)を外し、フィルター
カートリッジ(26)を取り出します。
この中に逆止弁用ボールが入っています。
フィルターカートリッジは、定期的の上・下反対で
使用して下さい。洗浄後、パッキン(27)、(28)を
忘れないよう気をつけて、フィルターカバー(25)は
付属のベルトレンチで強く締付けて下さい。
(フィルターカートリッジの消耗が早まる恐れがあります)

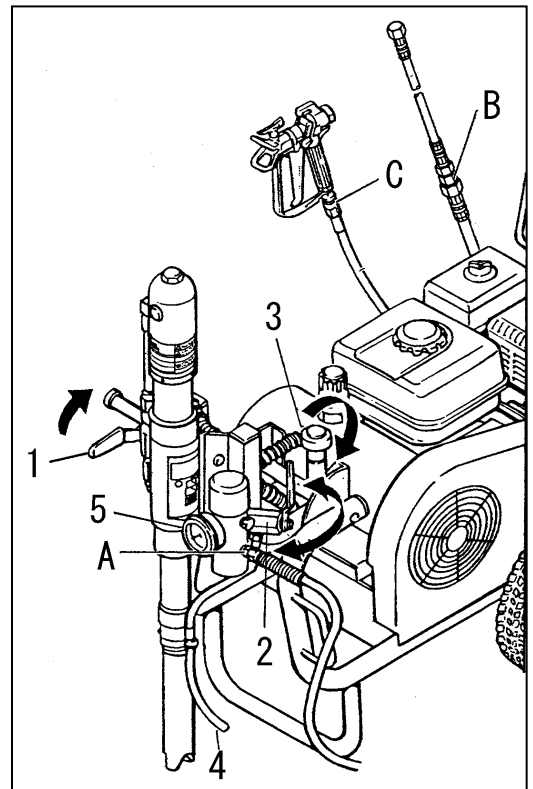


⑫ 「吸込み口」の吸入力を確認したら

- ・ダイレクトサクション型…塗料容器の中に水を10ℓ程入れ、「ダイレクトサクション」、「リターンホース」を入れます。
- ・ホッパー型 ……………「ホッパー」と「吸込み口」を「吸入ホース」で接続し、水を10ℓ程入れます。

⑬ エンジンを始動させ、回転数を最大にして、リリースバルブ(2)を左に回して開けます。切換バルブ(1)を縦(垂直)にし、圧力調整ノブ(3)を右に回すと、塗料ポンプが作動します。リターンホース(4)から水が流れ出します。スムーズに流れ出したら、圧力調整ノブ(3)を左に回し塗料ポンプを止めます。

⑭ リリースバルブ(2)を右に回し、閉じます。圧力計(5)を見ながら圧力調整ノブ(3)をゆっくり右に回し、「5MPa」まで圧力を上げます。
注)各接続部 A、B、Cでの漏れや、全体的に異常がないか確認します。



⑮ ⑭で異常が見られなかったら、圧力を最大の「21.0MPa」まで上げます。再度各部からの漏れ、異常がないか、確認します。異常が見られなければ、エアレスガンの引き金を「ON」、「OFF」して塗料通路の洗浄と、エアレスガンの漏れを確認します。

⑯ 確認が終了したら、切換バルブ(1)を横(水平)にして、圧力調整ノブ(3)を左に一杯回し、リリースバルブ(2)を左に回し、開けます。エアレスガンも引き金を引いて、圧力を「0」にします。

⑰ エンジンの回転数を低速にして、エンジンスイッチを「OFF」して停止させます。

3-2 塗装開始

①塗料メーカーの指示に従って希釈し、十分に攪拌して下さい。

注)攪拌時に空気が塗料中に混入すると圧力変動を起こしスプレーパターン不良の原因となります。

②「塗料容器」、「ホッパー」に塗料を入れ、3-1準備の⑨～⑭の作業を行って下さい。

③ノズルチップを装着しない状態でエアレスガンの引き金を引いて塗料を出します。

「塗料容器」、「ホッパー」内と同じ粘度の塗料がでてきたらノズルチップを装着して下さい。

注)・ノズルチップを装着する時は、圧力を「0」にして、「安全ロック」をかけて下さい。

・できるだけ低い圧力で作業して下さい。

④試し吹きをして作業に適した圧力に調整して下さい。

注)・「塗料粘度」、「塗料圧力」、「ノズルチップサイズ」などによっても
仕上がり状態は変わります。

・エンジン回転数は「最大」で作業して下さい。

3-3 作業の中断

①エアレスガンの「安全ロック」を必ずかけてください。

注)切換バルブを横(水平)にして、リリースバルブを開き、エアレスガンの引き金を引いて、圧力を逃がしておく方が、より安全です。

②中断が長い場合は、切換バルブを横(水平)にし、圧力調整ノブを左いっぱいに戻し、リリースバルブを開き、エアレスガンの引き金を引いて圧力を逃がし、エンジンの回転数を低速にし、エンジンスイッチを「OFF」にして下さい。

注)ノズルチップが乾かないよう「養生テープ」を貼るか、水につけて下さい。

次の作業がスムーズに行えます。

3-4 作業の終了と洗浄

① 作業が終了したら「エアレスガン」、「玉吹きアタッチメント」からノズルチップを外して下さい。

②-1. ダイレクトサクシオンタイプ

- ・塗料ポンプを横にして下さい。(P 5参照)
- ・塗料の入った容器から洗浄液の入った容器を変え、塗料ポンプを縦にします。

②-2. ホッパータイプ

- ・残留塗料が多い場合は、汲み出し、洗浄液を入れ内部をブラシ等で洗って下さい。

③「塗料容器」「ホッパー」内に、「リターンホース」、「エアレスガン・引いた状態」を入れ、塗料ポンプを作動させて下さい。

注)低い圧力で行って下さい。(3分間位)

④一度汚れた洗浄液を排出し、再度新しい洗浄液に交換し③の要領を2～3回繰り返して下さい。最後にノズルチップを取付けて洗浄して下さい。

- 注)・洗浄の為「塗料ポンプ」を長時間作動させると、パッキンの消耗を早めることになります。
- ・ホッパータイプは別売りの「洗浄セットP/N 2510305」を使用すると塗料ポンプを作動させずに洗浄できます。
 - ・「吸入弁ハウジング」を外し、吸入弁を洗浄させて下さい。
 - ・吸入ホースの中は、付属の「丸ブラシ」で洗浄して下さい。



注意

- ・塗料や洗浄で汚れた液をそのまま排水口などに捨てないで下さい。
- ・地方自治体等の処理方法に従って廃棄して下さい。
- ・処理方法によっては処罰される恐れがあります。

⑤塗料(手元)ホース、エアレスガン内部の水抜きをして下さい。

注)翌日も作業する場合は、「塗料ポンプ」、「塗料ホース」、「エアレスガン」の洗浄は行わず、圧力を抜いて、ノズルチップが乾かないようにして置いて下さい。

3-5 保管方法


- ① エンジンについては、別冊の「エンジン取扱説明書」に基づいて行って下さい。
- ② 長期間使用しない場合は、塗料通路に「サビ止め油」などを通して置いて下さい。
- ③ 「湿気」や「ホコリ」のない場所に保管して下さい。

4.保守・点検

4-1 エンジン

エンジンについては別冊の「エンジン取扱説明書」に基づいて行って下さい。

4-2 塗料(材料)ホース

 注意	<ul style="list-style-type: none">・使用前にホースの外皮に損傷の無いことを確認して下さい。・ネジ部は、塗料等で汚れてないこと、サビ付いてないこと、及び軽く手でねじ込められることを確認して下さい。・ホースを延ばす際は、「よれ」「キンク」が生じないようにして下さい。・ホースより漏れが発生した場合には、使用を中止して下さい。
---	--

4-3 ノズルチップ

・消耗品です！パターン不良及び、吐出圧力の異常低下の時は、新品と交換して下さい。

4-4 フィルターセット

・逆止弁が内臓されており、フィルターカートリッジは、弁シートの押さえ、弁ボールのガイドも兼ねています。

・フィルターカートリッジは、上・下使用可能です。

(片側が摩耗しても反対側が使えます。)

注) ハウジングカバーは強く締付けて下さい。

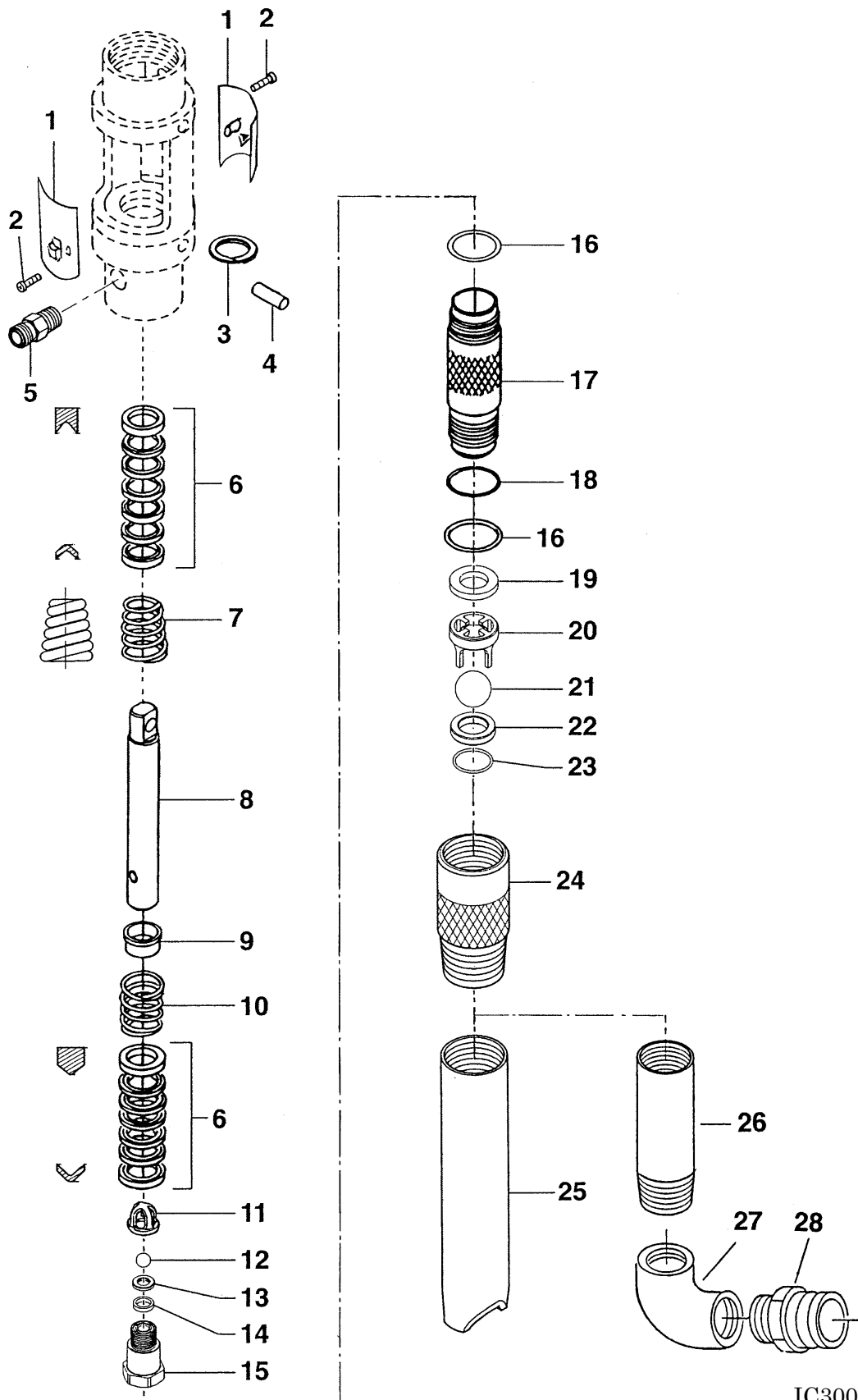
フィルターカートリッジの早期消耗や圧力変動の原因となります。

5.トラブルの原因と対策

症状	原因	対策
・エンジンが始動しない。	<ul style="list-style-type: none"> ・ガソリンが入っていない ・燃料コックが閉じている ・エンジンスイッチが「OFF」 ・エンジンオイルが不足 (オイルアラート作動) 	<ul style="list-style-type: none"> ・補給(無鉛ガソリン) ・コックを開く ・「ON」にする ・補給(P-6参照)
・エンジンは始動するが、 高速回転時や、2~3分間で 停止する。	<ul style="list-style-type: none"> ・燃料に水などが混入 ・キャブレターの詰まり ・オイルアラート作動 ・エンジンの回転数が低い 	<ul style="list-style-type: none"> ・洗浄(除去) ・分解洗浄 ・点検・修理 ・最大回転数(3700mm⁻¹)
・塗料ポンプが作動しない。	<ul style="list-style-type: none"> ・油圧ポンプのオイル量の不足 ・切換バルブが横(水平)になっ ている ・圧力調整ノブが回されていな い 	<ul style="list-style-type: none"> ・補給(P-5参照) ・縦(垂直)にする(P-7参照) ・右に回す(P-7参照)
・塗料ポンプは作動するがエア 抜きできない。	<ul style="list-style-type: none"> ・リリーフバルブが閉まっている ・塗料ポンプに「吸入力」がな い。吸入弁・吐出弁・逆止弁の 固着,又は摩耗 ・ホッパー型でカムロックが正 常に固定されていない ・ダイレクトサクシオンがゆるん でいる ・ピストン又は、Vパッキンの摩 耗 ・塗料通路の締まり 	<ul style="list-style-type: none"> ・左に回して開ける(P-8参照) ・分解、点検、洗浄、交換(P- 7参照) ・正しく取り付ける ・シール剤をつけて締め付ける ・交換 ・分解、洗浄、あるいは交換
・エア抜きはできるが、圧力が上 昇しない。	<ul style="list-style-type: none"> ・ピストン又はVパッキンの摩耗 ・リリーフバルブが開いている、 又は漏れ 	<ul style="list-style-type: none"> ・交換 ・閉じる(右に回す) 分解点検、又は交換
・圧力は上昇するがエアレスガン の引き金を引くと圧力低下が著し い。	<ul style="list-style-type: none"> ・ノズルチップ口径が大きい、又 は摩耗 ・塗料粘度が高い、又は攪拌不 足 ・塗料ホースの内径が細い ・吸入・吐出・逆止弁の摩耗 ・ピストン、Vパッキンの摩耗 	<ul style="list-style-type: none"> ・小さいサイズと交換、 又は新品と交換 ・希釈、充分な攪拌 (P-9参照) ・粘度が高い程、内径の大き いものを選ぶ ・交換 ・交換
・吐出圧力が安定しない。	<ul style="list-style-type: none"> ・吸入、吐出、逆止弁の摩耗 ・ピストン、Vパッキンの摩耗 ・攪拌不良による塗料に空気が 混入 ・塗料粘度が高い、又は攪拌が 不十分 ・油圧ポンプのオイル量不足 ・エンジン回転数不良 ・塗料ホースの内径が細く長い 	<ul style="list-style-type: none"> ・交換 ・交換 ・塗料を変え慎重に攪拌 ・希釈及び充分な攪拌 ・補給(P-5参照) ・点検・調整 ・ホースを長くしたい場合は内 径を太くする

6. 分解図 及び部品表

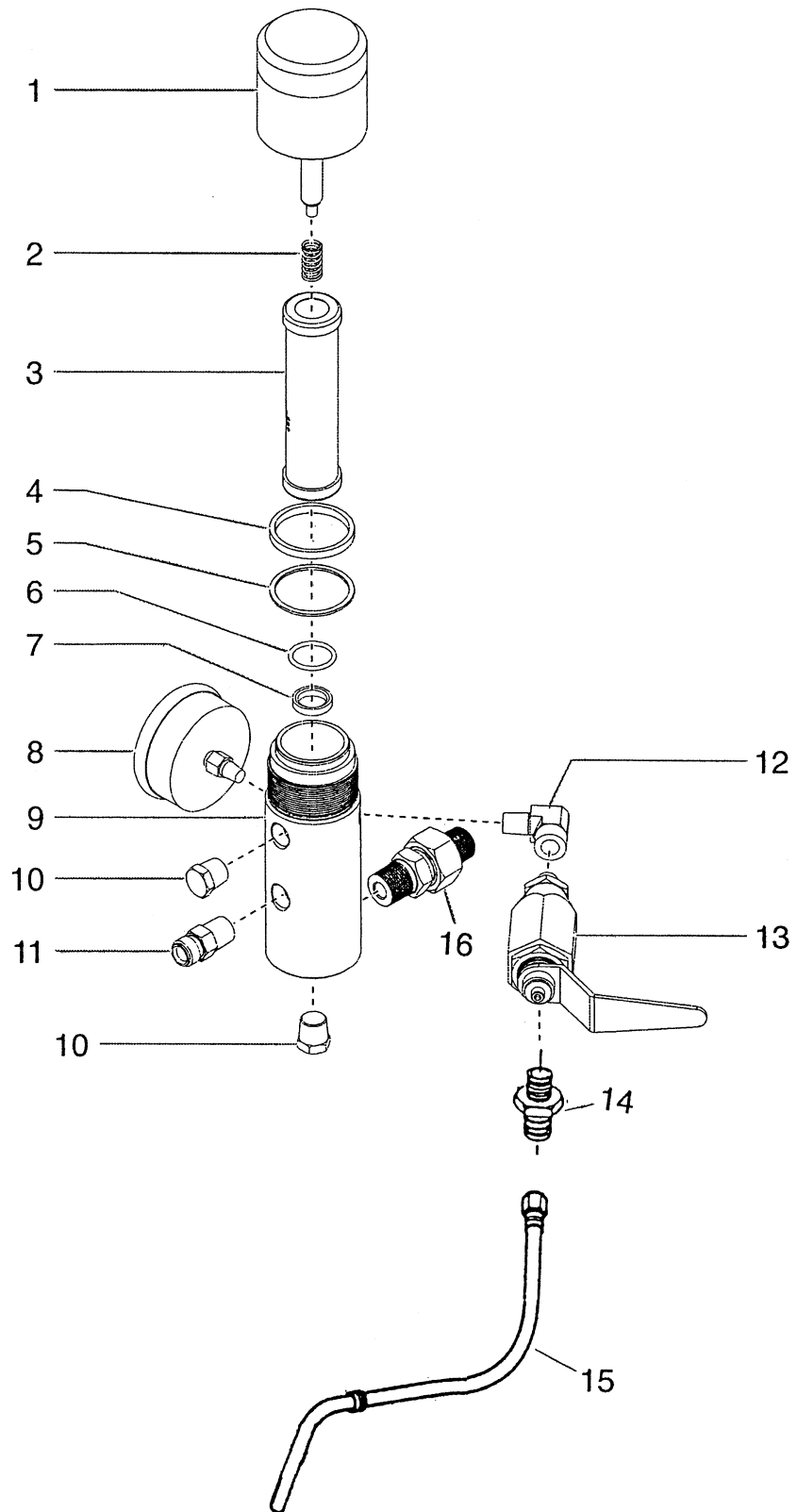
6-1 塗料ポンプ



IC300007A

POS	品番	品名	数量	備考
1	0349473	カバー	2	
2	0349472	十字穴付タッピンネジ	2	4.8x43
3	0349406	スプリングリング	○2●	
4	0349407	ピン	1	
6	0349409	パッキンセット	○2●	
7	0349410	円すいスプリング	1	
8	0349596	ピストン	○1	HC-940
	0349411	ピストン	○1	HC-960
9	0349412	スプリングガイド	1	
10	0349413	スプリング	1	
11	0349622	吐出弁ガイド	○1●	
12	0349414	吐出弁ボール	○1●	φ11
13	0555668	吐出弁シート	○1●	
14	0555669	シールパッキン	○1●	
15	0555670	吐出弁ハウジング	1	
16	0349408	Oリング・白	○2●	
17	0349606	シリンダー	○1	HC-940
	0349416	シリンダー	○1	HC-960
18	0349417	Oリング・黒	○1●	
19	0528081	波形ワッシャー	1	
20	0555672	吸入弁ガイド	1	
21	0349477	弁ボール	○1●	φ25.4
22	0509623	吸入弁シート	○1●	
23	0509708	Oリング・白	○1●	
24	0528011	吸入弁ハウジング	1	
25	0349300	ダイレクトサクシオン		
26	2141130	ソケット		
27	2103390	エルボ R11/2 白		
28	2520015	カムロック		
	0528101	弁・パッキンサービスセット	●	HC-940・960 Pos.3・6・11・ 12・13・14・16・18・21・22・ 23
	0528102	ポンプサービスセット	○	HC-940 Pos.3・6・8・11・ 12・13・14・16・17・18・21・ 22・23
	0528103	ポンプサービスセット	○	HC-960 Pos.3・6・8・11・ 12・13・14・16・17・18・21・ 22・23

6-2 フィルターセット



IC30008A

POS	品番	品名	数量	備考
1	0349429	ハウジングカバー	1	
2	0349430	プレッシャースプリング	1	
3	0349707	フィルターカートリッジ	1	0 メッシュ
4	0349432	パッキン	1	50×45×5
5	0349433	パッキン	1	50×45×2
6	0349434	Oリング	1	
7	0349435	バルブシート	1	
8	9991954	圧力計	1	0～40MPa
9	2141136	ハウジング	1	R1/2
10	0349438	プラグ	2	
11	2104204	ホースフィッティング	1	G1/2M×R1/2M
12	0528082	エルボ	1	R1/4M×R1/4F
13	0555645	リターンバルブセット	1	
14	2240203	リターンジョイント	1	
15	2230343	リターンホースセット	1	φ12×800
	2520633	リターンホースセット	1	φ12×1500
16	0556101	ユニオンジョイント	1	

LC30008A

7. アクセサリー

P/N	品名
2145080	80Lホッパーキット(吸入ホースセット付)
2146150	80Lホッパーキット(吸入ホースセット無)
0349300	ダイレクトサクシオン
2240159	フレキシブルサクシオンセット (φ25×800L L型パイプ フィルター・カムロック付)
2247014	エアレスガンAG-14J (G3/8M)
0000270	玉吹きアタッチメント AT-03 (丸吹きノズル φ6、φ8付)
2510305	洗浄セット
2145500	油圧ポンプ用オイル 1L缶入り
2145501	油圧ポンプ用オイル 4L缶入り
2235500	潤滑オイル 250ml 容器入り
2148222～224	ツインホースφ13×20～40m(常用使用圧 21.0MPa)
2148232～234	ツインホースφ16×20～40m(常用使用圧 21.0MPa)



WAGNER 日本ワグナー・スプレーテック株式会社

本社：〒574-0057 大阪府大東市新田西町2-35 TEL:072-874-3561 FAX072-874-3426

札幌 TEL.011-711-8111 関東 TEL.042-379-1161 関西 TEL.072-874-3561 福岡 TEL.092-472-5533

FAX.011-702-4602 FAX.042-379-1166 FAX.072-874-3426 FAX.092-471-8206

仙台 TEL.022-742-3055 名古屋 TEL.0562-98-8621 広島 TEL.082-845-8550 鹿児島 TEL.099-265-3806

FAX.022-742-3056 FAX.0562-98-8623 FAX.082-845-8551 FAX.099-265-3627

◎仕様・部品番号・価格は予告なく変更することがあります。